

第二高等学校 2学年「現代文B」シラバス（5月分） **普通科・S・A共通**

1. 単元 小説I 山月記

<p>2. 単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の舞台や時代をイメージできるようにする。 ・作品独特のリズムと文体を味わう。 ・登場人物の人間関係と性格を把握する。 ・場面の展開と登場人物の心理をつかむ。 ・特徴のある表現とその効果を理解する。 ・登場人物の心理の変化を捉える。 ・漢詩の意味を捉え、作中での役割を把握する。 	<p>3. 評価規準</p> <p>【話す・聞く能力】</p> <p>②発問を主体的に考えると同時に、相手の意図を考え聞くことができる。</p> <p>【書く能力】</p> <p>③予習を通して自分の考えをまとめ、講義や資料を使って文章化する。</p> <p>【読む能力】</p> <p>④目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読む。</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】</p> <p>⑤音声や文字・語句・言葉遣いなどの、国語についての基礎的な事項や、日本文化について理解する。</p>
<p>3. 評価規準</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>①作品に関する関心を持ち、意欲的に調べたり、書いたりして語彙力を高める。</p>	

4. 授業計画

学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
山月記 第一段	1	・教科書P26～P37 全文を読み、感想をノートにまとめる。 ・わからない語句を調べ、ノートにまとめる。	・ノート等に記入し、後日配布するプリントに記入し、提出する。	①③
	2	・教科書（第一段）P26～P27 5行目を読む。 ・NHK高校講座（ライブラリー現代文）山月記（1）を聞く	・学習プリントへの記入。 ・NHK高校講座（ライブラリー現代文）山月記（1）の「理解度チェック」による振り返り。	②④
山月記 第二段 第三段	3	・教科書（第二段）P27 6行目～P29 1行目を読む。 ・NHK高校講座（ライブラリー現代文）山月記（2）を聞く。	・学習プリントへの記入。 ・NHK高校講座（ライブラリー現代文）山月記（2）の「理解度チェック」による振り返り。	②④
	4	・教科書（第三段）P29 2行目～P31 13行目を読む。 ・NHK高校講座（ライブラリー現代文）山月記（3）を聞く。	・学習プリントへの記入。 ・NHK高校講座（ライブラリー現代文）山月記（3）の「理解度チェック」による振り返り。	②④
山月記 第四段	5	・教科書（第四段）P31 14行目～P33 15行目を読む。 ・NHK高校講座（ライブラリー現代文）山月記（4）を聞く。	・学習プリントへの記入。 ・NHK高校講座（ライブラリー現代文）山月記（4）の「理解度チェック」による振り返り。	②④
山月記	6	・教科書（第四段）までの振り返りを行う。		⑤

1. 単元 歌物語「伊勢物語（初冠）」・小話「十八史略（創業守成）」
 随筆「枕草子（中納言参り給ひて）」

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【知識・理解・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品と作者への興味関心を深め、各章段の内容や趣向を読み取る。 <p>【読む能力・書く能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物とその会話の内容を読み取る。 作者の当意即妙な言葉と、隆家との関係性について読み取る。 <p>【言語事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 敬語法について理解を深める。 	<p>【知識・理解・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①歌物語や随筆について理解を深めることができたか。 ②平安時代の文化について理解を深めることができたか。 <p>【読む能力・書く能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ③会話主とその内容を読み取ることができたか。 ④この出来事を記した作者の心情について把握することができたか。 <p>【言語事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑤文法的に正確な解釈ができたか。

4. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	「初冠」 「創業守成」 (4月の課題:継続)	1	・教科書を読み、 辞書や文法書を活用しながら、 解釈をしていく。 ・演習問題に取り組む。	課題プリントによる確認	① ② ⑤
第2回	「初冠」 「創業守成」 (4月の課題:まとめ)	2	・演習問題に取り組む。 ・解答例と自身の解答との差について思考を深める。 ・配信教材の視聴	課題プリントによる確認	③ ④ ⑤
第3回	「中納言参り給ひて」	3	・NHK高校講座の聴取 ・教科書を読み、 辞書や教科書を参考にしながら、 解釈をしていく。	課題プリントによる確認	① ②
第4回	「中納言参り給ひて」	4	・NHK高校講座の聴取 ・辞書や教科書を参考にしながら、 解釈をしていく。 ・敬語法の学習に取り組む。	課題プリントによる確認	③④ ⑤
第5回	「中納言参り給ひて」	5	・NHK高校講座の聴取 ・敬語法の学習に取り組む	課題プリントによる確認	③④ ⑤
第6回	「中納言参り給ひて」	6	・敬語法の学習に取り組む。 ・演習問題に取り組む。	課題プリントによる確認	③④ ⑤

第二高等学校 2 学年「世界史A」シラバス (5月分)

1. 単元 ヨーロッパの主権国家体制

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>①ヨーロッパ諸国が国内の支配を固め、独立した主権国家として対立と妥協を繰り返しながら、一つの国際秩序(主権国家体制)が形成されたことを理解する。</p> <p>②世界の一体化の進展の中で、西欧ではイギリス革命などに代表される近代市民社会への歩みが始まる一方、東欧は経済的に西欧に従属し、封建的な社会が強化され近代化が遅れたことを理解する。</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>①該当箇所の理解ができたことを整理ノートで確認する。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>②授業回ごとの配信課題での論述問題への取り組みで確認する。</p> <p>【資料活用の技能】</p> <p>③図説の年表や地図、歴史史料を活用し、歴史事項について理解を深め、配信課題で確認する。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>④歴史的事項に関心を持ち考察を深めたか、整理ノート及び配信課題への取り組み状況で確認する。</p>

4. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	主権国家体制の成立 ／イタリア戦争／スペインの全盛	1	教科書p.64～65 整理ノートp.120～121 図説p.164～165	整理ノート 配信課題	① ②③④
第2回	オランダの独立とイギリスの海外進出／フランスの絶対王政	1	教科書p.65～67 整理ノートp.122～123 図説p.164～168	整理ノート 配信課題	①④ ②③④
第3回	17世紀の危機と三十年戦争／東ヨーロッパの新しい動き	1	教科書p.68 整理ノートp.124～125 図説p.169・172～174	整理ノート 配信課題	①④ ②③④
第4回	重商主義政策／イギリス革命	1	教科書p.65～66 整理ノートp.126～127 図説p.164～166	整理ノート 配信課題	①④ ②③④
第5回	イギリス議会政治の確立／ルイ14世の時代	1	教科書p.66～67 整理ノートp.128～129 図説p.167～168	整理ノート 配信課題	①④ ②③④
第6回	プロイセンとオーストリア／ロシアの発展／ポーランド分割	1	教科書p.68～69 整理ノートp.130～131 図説p.169・172～175	整理ノート 配信課題	①④ ②③④

第二高等学校 2学年「日本史A」シラバス（5月分）

1. 単元 開国と明治維新

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明治政府の富国強兵政策の内容を理解する。 ・ 明治初期の国際情勢と政府の外交政策を理解する。 ・ 明治政府の殖産興業政策や文明開化の様相を理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明治政府の近代化政策の特徴やその背景を考える。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画を立て、実施し、取組をふり返る。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 明治政府の富国強兵政策の内容を理解できる。 ② 明治初期の国際情勢と政府の外交政策を理解できる。 ③ 明治政府の殖産興業政策や文明開化の様相を理解できる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ④ 明治政府の近代化政策の特徴やその背景を説明できる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑤ 計画を立て実施し取組をふり返ることができる。

4. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	富国強兵	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書を読む。 ・ 授業整理ノートを演習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ NHK高校講座を見て理解を深める。 ・ 整理ノートを復習する。 ・ オンラインによる質問受付。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Classiによる確認テスト ・ 整理ノートの演習状況 	① ④ ⑤
第2回	明治初期の外交	3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書を読む。 ・ 授業整理ノートを演習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ NHK高校講座を見て理解を深める。 ・ 整理ノートを復習する。 ・ オンラインによる質問受付。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Classiによる確認テスト ・ 整理ノートの演習状況 	② ④ ⑤
第3回	殖産興業と文明開化	5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書を読む。 ・ 授業整理ノートを演習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ NHK高校講座を見て理解を深める。 ・ 整理ノートを復習する。 ・ オンラインによる質問受付。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Classiによる確認テスト ・ 整理ノートの演習状況 	③ ④ ⑤

熊本県立第二高等学校 2 学年「地理A」シラバス (5 月分)

1. 単元 第1編 現代世界の特徴と動向 第1章 地球儀や地図からとらえる世界

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>① 水陸分布, 大陸間の方位, 距離, 位置関係, 時差の生じるメカニズムについて考察することで, 球体としての地球の姿を把握する。</p> <p>② 世界地図は球体を平面にしているゆえに歪みが生じ, そこからさまざまな投影法が開発されてきたこと, 地図は用途に応じて適切な図法を用いることを理解する。</p>	<p>① 【関心・意欲・態度】 地球儀と世界地図から地球に対する関心と課題意識を高め, それらを意欲的に追究し, とらえようとしている。</p> <p>② 【思考・判断・表現】 地球の水陸分布, 地図上の世界, 時差について, 地域性や日常生活との関連をふまえて考察している。</p> <p>③ 【資料活用の技能】 地球儀やさまざまな図法の地図を収集し, 地球上の位置や時差について, 有用な情報を読み取っている。</p> <p>④ 【知識・理解】 地球儀と地図との違い, 図法の特徴, 地球上の位置や時差についての基本的な事柄を理解し, 知識を身に付けている。</p>

4. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	地球儀と世界地図からとらえる地球	1	教科書 P8～P9 『地球儀からとらえる地球』 要点ノート P4～P7 地理資料 P18～P20	・要点ノートの取組状況	③
第2回	える地球	1	教科書 P10～P11 『地球は動いている』 要点ノート P8 地理資料 P16～P17	・要点ノートの取組状況	②
第3回		1	第1回、第2回の授業まとめ NEWCOM-PASS ノート P4～P9	・NEWCOM-PASS ノートの取組状況	①④
第4回	さまざまな地図とその果たす役割	1	教科書 P168～P171 『主題図の作成』 教科書 P168～P171 を参考にして、主題図を完成させる。	・白地図作成	②
第5回	す役割	1	教科書 P162～P167 『様々な地図とその役割』 要点ノート P10～P12 地理資料 P24～P29	・要点ノートの取組状況	③
第6回		1	第4回、第5回の授業まとめ NEWCOM-PASS ノート P10～P11	・NEWCOM-PASS ノートの取組状況	①④

備考：要点ノート、NEWCOM-PASS ノートの提出については後日指示します。

第二高等学校 2学年「数学Ⅱ（数学B）」シラバス（5月分）

1. 単元 第6章 微分法と積分法

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求める。 ・導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく。 ・定積分を用いて関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微分や積分の考えを事象の考察に活用する。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画を立て、実施し、取組をふり返る。 	<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①種々の導関数の計算ができる。 ②導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりできる。 ③定積分の定義や性質を理解し、定積分の計算方法を理解している。 ④直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑤関数の増減を調べたり、曲線で囲まれた図形の面積を求めたりできる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑥計画を立て実施し取組をふり返ることができる。

4. 授業計画

授業回	学習項目	教科書	学習内容 4プロセス	評価方法	評価規準
第1回	導関数	p. 183	382, 383, 384	後日にノート提出 ※ 適宜、Classiによる自己評価を行うことがある。	①
第2回	微分係数	p. 184, 185	385, 386, 387		①
第3回	接線の方程式	p. 186, 187	391, 396		①
第4回	節末問題	p. 188	対応表（別紙）参照		①⑥
第5回	節末問題	p. 188	対応表（別紙）参照		①⑥
第6回	関数の増減	p. 189～191	401		①②
第7回	関数の極大・極小	p. 191, 192	402, 403		①②
第8回	関数の極値とグラフ	p. 193	404		①②
第9回	関数の最大・最小	p. 194, 195	405, 413		①②
第10回	問題演習	既習の内容に対応するチャート式を解く			⑤⑥
第11回	方程式への応用	p. 196, 197	418, 419, 414		①②
第12回	不等式への応用	p. 198, 199	426, 429		①②
第13回	節末問題	p. 200	対応表（別紙）参照		⑤⑥
第14回	不定積分①	p. 201, 202	437		①⑥
第15回	不定積分②	p. 203, 204	438～442		①⑥
第16回	定積分	p. 205, 206	445～447		③
第17回	定積分の性質	p. 207～209	448, 449	後日にノート提出 ※ 適宜、Classiによる自己評価を行うことがある。	③
第18回	積分方程式	p. 209, 210	455, 456		③
第19回	問題演習	既習の内容に対応するチャート式を解く			③⑥
第20回	定積分と面積	p. 211, 212			③④
第21回	曲線とx軸との面積	p. 213, 214	463, 465		③④
第22回	曲線で囲まれた面積①	p. 215, 216	466, 467		③④
第23回	曲線で囲まれた面積②	p. 217, 218	468, 469		③④
第24回	曲線で囲まれた面積③	p. 219, 220	476, 470		③④
第25回	節末問題	p. 211	対応表（別紙）参照		⑤⑥
第26回	章末問題A	p. 222	対応表（別紙）参照		⑤⑥
第27回	章末問題B	p. 223	対応表（別紙）参照		⑤⑥
第28回	問題演習	既習の内容に対応するチャート式を解く			⑤⑥

第二高等学校 2 学年「物理」シラバス (5 月分) 9 回

1. 単元 (1) 速度 [平面運動] (2) 加速度 [平面運動] (3) 落体の運動 [平面運動]
(4) 剛体にはたらく力のつりあい (5) 運動量と力積 (6) 運動量保存則 (7) 反発係数

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平面内を運動する物体の運動について理解する 水平投射及び斜方投射された物体の運動を直線運動と関連付けて理解する 大きさのある物体のつり合いに関する実験などを行い、剛体のつり合う条件を見いだして理解すること。 運動量と力積との関係について理解する 物体の衝突や分裂に関する実験などを行い、運動量保存の法則を理解する 衝突における力学的エネルギーの変化について理解する <p>【思考力, 判断力, 表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作図をすることで諸現象を表現し、公式を用いた計算をする。 <p>【学びに向かう力, 人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画を立て、実施し、取組を繰り返す 自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①平面内を運動する物体の運動について理解できる (I) ②水平投射及び斜方投射された物体の運動を直線運動と関連付けて理解できる (I) (C) ③大きさのある物体のつり合いに関する実験などを行い、剛体のつり合う条件を見いだして理解できる。(I) (C) ④運動量と力積との関係について理解できる (I) (C) ⑤物体の衝突や分裂に関する実験などを行い、運動量保存の法則を理解できる (I) (C) (E) ⑥衝突における力学的エネルギーの変化について理解できる (I) (C) <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑦作図をすることで諸現象を表現し、公式を用いた計算ができる。(I) (C) (E) <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑧計画を立て実施し取組を繰り返すことができる。(C) (E) ⑨自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究できる (C) (E)

4. 授業計画

回	学習項目	教科書	学習内容・方法	評価方法	評価規準
1	平面内の物体の運動 ・速度 ・加速度 物理基礎で学習した内容の復習と発展	P6~30 P9, 13, 14, 15, 16, 17 のような平面内での運動(ベクトルを用いる)について学習する。	・教科担任作成の動画視聴 ・研究ノート (問題番号) 3, 4, 5	Classi 等による取組の振り返りアンケート及び確認テスト	①
2	落体の運動 ・水平投射 ・斜方投射	P31~41 物理基礎で学習した内容に加えて P35~41 のような平面内での放物運動について学習する。	・教科担任作成の動画視聴 ・研究ノート (問題番号) 3, 4, 5	Classi 等による取組の振り返りアンケート及び確認テスト	①②
3	・剛体にはたらく力 ・力のモーメント	P81~85	・教科担任作成の動画視聴 ・研究ノート (問題番号) 18, 24	Classi 等による取組の振り返りアンケート及び確認テスト	③
4	・剛体にはたらく力の合力 ・偶力 ・重心	P86~89	・教科担任作成の動画視聴 ・研究ノート (問題番号) 19, 20, 21, 25	Classi 等による取組の振り返りアンケート及び確認テスト	③
5	・重心 ・モーメントのまとめ	P89~93	・教科担任作成の動画視聴 ・研究ノート (問題番号) 25, 27, 29, 30	Classi 等による取組の振り返りアンケート及び確認テスト	③
6	・運動量 ・力積	P118~121	・教科担任作成の動画視聴 ・研究ノート (問題番号) 34, 35	Classi 等による取組の振り返りアンケート及び確認テスト	④⑤
7	・運動量保存則	P122~127	・教科担任作成の動画視聴 ・研究ノート (問題番号) 36, 37	Classi 等による取組の振り返りアンケート及び確認テスト	④⑤
8	・床との衝突 ・直線上の 2 物体の衝突	P128~131	・教科担任作成の動画視聴 ・研究ノート (問題番号) 38, 39	Classi 等による取組の振り返りアンケート及び確認テスト	④⑤⑥
9	・床との斜めの衝突 ・運動量と力学的エネルギー	P132~135	・教科担任作成の動画視聴 ・研究ノート (問題番号) 41, 42, 46	Classi 等による取組の振り返りアンケート及び確認テスト	④⑤⑥

5. 評価について

- ・Classi 等による web テスト・アンケート等の解答を用いて評価する
 - ・登校日に提出するノート・ルーズリーフの内容を用いて評価
- ※以前、課題として提示した研究ノートの全範囲は最終的にはすべて提出する。上表の研究ノートの範囲はその学習時間内に解く目安である。

熊本県立第二高等学校 2 学年普通科理系コース「生物」シラバス (5 月分)

1. 単元 第 1 章「細胞と分子」

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命の基本単位である細胞とそれを構成する物質 (分子) の種類と関係を理解する。 ・生体の機能を担うタンパク質について、構成単位 (アミノ酸)、分子構造及び立体構造と機能の関連性を理解する。 ・様々な生命反応 (細胞小器官・細胞骨格、酵素反応、物質輸送、免疫等) が、タンパク質の性質や機能と関連性があることを理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な生命反応が、多様なタンパク質の性質や機能によって起こっていることを科学的に説明する。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画を立て、実施し、取組を振り返る。 	<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生命の基本単位である細胞とそれを構成する物質 (分子) の種類と関係を理解できる。 ②タンパク質の構成単位であるアミノ酸の構造と性質、またタンパク質の立体構造とその機能について理解できる。 ③様々な生命反応 (細胞小器官・細胞骨格、酵素反応、物質輸送、免疫等) が、タンパク質の性質や機能と関連性があることを理解できる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> ④様々な生命反応が、多様なタンパク質の性質や機能によって起こっていることを科学的に説明することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑤計画を立て実施し、取組を振り返ることができる。

4. 画授業計

授業回	学習項目	学習内容	評価方法	評価基準
第 1 回 5/8(金)	第 1 節 生体を構成する物質	教科書 P12~15 を読み、生物研究ノートの基本問題 2,3 を解答する。 ※生物資料 P28,29,38,39 参照	・ノート等の提出 ・定期考査または確認テスト	① ⑤
第 2 回 5/11(月)	第 2 節 タンパク質の構造と性質	教科書 P16~21 を読み、生物研究ノートの基本問題 4,10 を解答する。 ※生物資料 P91,93 参照	・ノート等の提出 ・定期考査または確認テスト	① ②
第 3 回 5/13(水)	第 3 節 酵素のはたらき	教科書 P22~25 を読み、生物研究ノートの基本問題 5,6,7 を解答する。 ※生物資料 P99,100 参照	・ノート等の提出 ・定期考査または確認テスト	② ③ ④ ⑤
第 4 回 5/15(金)	第 3 節 酵素のはたらき	教科書 P26~27 を読み、生物研究ノートの基本問題 8,9 を解答する。 ※生物資料 P101 参照	・ノート等の提出 ・定期考査または確認テスト	② ③ ④ ⑤
第 5 回 5/18(月)	第 4 節 細胞の構造	教科書 P28~35 を読み、生物研究ノートの基本問題 1,15 を解答する。 ※生物資料 P32,33,36,49,94,96 参照	・ノート等の提出 ・定期考査または確認テスト	③ ④ ⑤
第 6 回 5/20(水)	第 5 節 物質輸送とタンパク質	教科書 P36~39 を読み、生物研究ノートの基本問題 11,12 を解答する。 ※生物資料 P42,43,94,参照	・ノート等の提出 ・定期考査または確認テスト	② ③ ④ ⑤
第 7 回 5/22(金)	第 5 節 物質輸送とタンパク質	教科書 P40~45 を読み、生物研究ノートの基本問題 13,14 を解答する。 ※生物資料 P52,53,96 参照	・ノート等の提出 ・定期考査または確認テスト	② ③ ④ ⑤
第 8 回 5/25(月)	第 6 節 情報伝達・認識とタンパク質	教科書 P46~53 を読み、生物研究ノートの基本問題 16,17 を解答する。※生物資料 P204~210 参照	・ノート等の提出 ・定期考査または確認テスト	③ ④ ⑤
第 9 回 5/27(水)	第 1 章のまとめ (応用問題演習)	第 1 章 P12~53 のまとめとして、生物研究ノートの応用問題 18,19,20 を解答する。	・ノート等の提出 ・定期考査または確認テスト	① ② ③ ④ ⑤

5. 学習上の留意事項

- (1) 研究ノートの問題演習 (解答) は要提出なので、提出可能なもの (ルーズリーフ等) に記入すること。問題演習の場合は、解答だけを記入するのではなく、解説・教科書・生物資料集などを見て、キーワードや重要事項なども補足として書き留めること。
- (2) 第 1 章 (教科書 P12~53) の学習内容については、学校再開後に定期考査または授業中の確認テストを実施します。

熊本第二高等学校 2 学年「化学基礎」シラバス (5 月分)

1. 単元 (1) 物質の構成 (2) 物質と化学結合

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【知識・技能】 ・物質の構成粒子や量的関係に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 ・分子運動と物質の三態との関係から、代表的な物質について、常温、常圧での状態を理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・電子の状態が物質の性質に大きく寄与していることを推論する。 ・物質の状態変化は、構成粒子の熱運動に関係し、それが温度や圧力によるものであることを判断する。 ・周期表から大まかな性質が判断する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 日常の現象を化学的視点で捉えることができる。</p>	<p>【知識・技能】 Iレベル ①物質の構成粒子や量的関係に関する基本的な概念や原理・法則を理解できる。 ②分子運動と物質の三態との関係から、代表的な物質について、常温、常圧での状態を理解できる。</p> <p>【思考・判断・表現】 Cレベル ③電子の状態が物質の性質に大きく寄与していることを推論できる。 ④物質の状態変化は、構成粒子の熱運動に関係し、それが温度や圧力によるものであることを判断できる。 ⑤周期表から大まかな性質が判断できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 Eレベル ⑥日常の現象を化学的視点で捉えることができる。</p>

4. 授業計画

授業回	学習項目	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	物質の性質と種類	①教科書 p. 18~23 ②ネオパルノート p. 2~3	Classi による 確認テスト	①
第2回	物質と元素	①教科書 p. 24~28 ②ネオパルノート p. 4 ~5	Classi による 確認テスト	①
第3回	物質の三態と熱運動	①教科書 p. 29~31 ②ネオパルノート p. 6~7	Classi による 確認テスト	②, ④
第4回	原子の構造	①教科書 p. 34~42 ②ネオパルノート p. 8 ~11	Classi による 確認テスト	③
第5回	イオンの生成	①教科書 p. 43~45 ②ネオパルノート p. 14 ~15	Classi による 確認テスト	③
第6回	周期表	①教科書 p. 46~49 ②ネオパルノート p. 12 ~13	Classi による 確認テスト	⑤
第7回	イオン結合・イオン結晶	①教科書 p. 56~59 ②ネオパルノート p. 16~17	Classi による 確認テスト	①, ③
第8回	分子と分子間力①	①教科書 p. 64~67 ②ネオパルノート p. 18 ~19	Classi による 確認テスト	①, ②
第9回	分子と分子間力② ~極性~	①教科書 p. 68~69, 71~73 ②ネオパルノート p. 20~21	Classi による 確認テスト	①, ②
第10回	分子と分子間力③ ~分子結晶その他~	①教科書 p. 74~76 ②ネオパルノート p. 22~23	Classi による 確認テスト	①, ②
第11回	総復習	別途指示	テスト	⑥
第12回	総復習	別途指示	テスト	⑥

5. 備考

(1) 学習の進め方 (50 分)

- 教科書・図説を読む (10 分)
- ネオパルノートを解く (30 分) ※解答できない場合教科書・Web 化学動画サイトを見る。
- 確認テスト (10 分) classi で配信

(2) 化学科では classi/ポートフォリオ/スペースを利用して、化学基礎の学習で生じた質問を受けたいと考えています。現在、試行段階です。今後効率の良い方法を検討していきます。質問の受け方は、以下のとおりです。

- 自力で解いたところまでのノートを写真に撮り、ファイルを添付、classi に投稿してください。タイトルは教科書・問題集等の名称とそのページ、本文は特に解説をしてほしいところ、メッセージを記載してください。
- 化学科の担当者が①を見て回答する。上記の方法でうまくいかない場合は classi を通じて連絡ください。改善を考えます。また、classi でうまくいかないときには、学校へ直接電話 (096-368-4125) での問い合わせも可能です。

(3) 学習が順調に進んでいる生徒は、問題集セミナー化学の該当ページを解き進めてください。

(4) 現在、化学科で動画を作成しています。作成完了次第、アップします。学習を進める上で、Web 化学動画を活用するのも一つの方法です。Web 化学動画サイトの一例を紹介します。

- NHK 高校講座
<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/kagakukiso/>
- 個別教室のトライ
https://www.youtube.com/watch?v=GEjtSrSaFjc&list=PLf0Jcbz0N8NDvK_3z181q6t0wZRRPJBox
- Web 玉塾
<https://www.webtamajuku.com/kagaku>

1. 単元 Lesson1 Beyond Words
Lesson2 Stay Hungry, Stay Foolish

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非音声的言語が文化によって異なることを理解する。 ・スティーブ・ジョブズが人生において得た教訓を理解する。 ・助動詞+完了形、受動態の動名詞、付帯状況を表す with+A+B、複合関係詞、S+V(be 動詞)+C(that 節)、be 動詞+to 不定詞について理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非音声的言語について自らの経験を表現する。 ・スティーブ・ジョブズの得た教訓について考えたこと、また自らが得た教訓について表現する。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画を立て、実施し、取組をふり返る。 	<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①文化による非音声言語の違いを理解することができる。 ②スティーブ・ジョブズが得た教訓を理解できる。 ③助動詞+完了形、受動態の動名詞、付帯状況を表す with+A+B、複合関係詞、S+V(be 動詞)+C(that 節)、be 動詞+to 不定詞を運用して表現することができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> ④非音声的言語について自らの経験を表現できる。 ⑤スティーブ・ジョブズの得た教訓について考えたこと、また自らが得た教訓について表現できる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑥計画を立て実施し取組をふり返ることができる。

4. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	Day1 本文の概要把握 英問英答	1	・「Day1」動画視聴 ・解説プリントを読む。 ・教科書P22～23を読む。	ワークシートの取組状況	①
第2回	Day2 本文の要約	1	・「Day2」動画視聴 ・解説プリントを読む。 ・教科書P22～23を読む。	ワークシートの取組状況	①
第3回	Day3 文法のポイント 文構造についての理解	1	・「Day3」動画視聴 ・解説プリントを読む。 ・教科書P22～23を読む。	・ワークシートの取組状況 ・classiによる確認テスト	③④ ①③ ⑥
第4回	① 本文の概要把握	1	・動画視聴 ・解説プリントに取り組む。 ・教科書P34～35を読む。	・ワークシートの取組状況	②③
第5回	② 表現活動	1	・動画視聴 ・解説プリントに取り組む ・教科書P42～45を読む。	・ワークシートの取組状況 ・classiによる確認テスト	⑤ ②③ ⑥

評価について

classi の web テスト・アンケート等の解答を用いる。
登校日に提出する、ワークシートの内容を用いる。

第二高等学校 2 学年「英語表現Ⅱ」シラバス（～5/15）

1. 単元 Lesson1 時の表し方
Lesson2 動詞と文の構造

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動詞の時制について学んで理解する。 ・時や状況に応じて動詞の時制を正しく使う。 ・動詞と文の構造について理解する。 ・伝えたい内容に応じて動詞と文の構造を適切に用いて文を作る。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の過去・将来について話したり、文章を書いたりする。 ・様々な日本の文化について動詞と文の構造を適切に用いて表現する。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画を立て、実施し、取組をふり返る。 	<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①動詞の時制を理解できる。 ②時や状況に応じて動詞の時制を正しく使うことができる。 ③動詞と文の構造について理解できる。 ④伝えたい内容に応じて動詞と文の構造を適切に用いて文を作ることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑤自分の過去・将来について話したり、文章を書いたりできる。 ⑥様々な日本の文化について動詞と文の構造を適切に用いて表現できる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑦計画を立て実施し取組をふり返ることができる。

4. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	時の表し方	1	<ul style="list-style-type: none"> ・動画視聴 ・解説プリントを読む。 ・教科書P11の練習問題に取り組む。 ・エッセイを書く。 	ノートの取組状況 classiによるエッセイ提出	①② ⑤
第2回	動詞と文の構造	1	<ul style="list-style-type: none"> ・動画視聴 ・解説プリントを読む。 ・教科書P15の練習問題に取り組む。 	ノートの取組状況 classiによるwebテスト	③④ ⑥⑦

評価について

classiのwebテスト・エッセイ等を用いる。
提出するノートの内容を用いる。

第二高等学校 2学年「保健」シラバス(5月分)

単元名	授業回	実施日	項目名	学習のねらい	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
単元 1 現代社会と 健康	1	4/20~	大気汚染と健康	大気汚染の原因とその健康影響、大気にかかわる地球規模の環境問題について理解し、説明することができる。	大気汚染の原因とその健康影響、大気にかかわる地球規模の環境問題について、課題の解決に向けて話し合いや意見交換などを行う学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	大気汚染の原因とその健康影響、大気にかかわる地球規模の環境問題について、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたら、整理するなどして、それらを説明することができる。	大気汚染の原因とその健康影響、大気にかかわる地球規模の環境問題について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
	2	4/27~	水質汚濁、土壌汚染と健康	水質汚濁の原因とその健康影響、土壌汚染の原因とその健康影響、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわりについて理解し、説明することができる。	水質汚濁の原因とその健康影響、土壌汚染の原因とその健康影響、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわりについて、課題の解決に向けて話し合いや意見交換などを行う学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	水質汚濁の原因とその健康影響、土壌汚染の原因とその健康影響、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわりについて、課題を見つけたら、整理するなどして、それらを説明することができる。	水質汚濁の原因とその健康影響、土壌汚染の原因とその健康影響、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわりについて、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
	3	5/4~	健康被害の防止と環境対策	環境汚染の防ぐための取り組み、産業廃棄物の処理と健康問題について理解し、説明することができる。	環境汚染の防ぐための取り組み、産業廃棄物の処理と健康問題について、学習したことを個人及び社会生活や事例などと比較したり、分類・分析するなどして、それらを説明することができる。	環境汚染の防ぐための取り組み、産業廃棄物の処理と健康問題について、学習したことを個人及び社会生活や事例などと比較したり、分類・分析するなどして、それらを説明することができる。	環境汚染の防ぐための取り組み、産業廃棄物の処理と健康問題について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
	4	5/11~	環境衛生活動のしくみと働き	ごみの処理の現状とその課題、上下水道の整備と尿の処理について理解し、説明することができる。	ごみの処理の現状とその課題、上下水道の整備と尿の処理について、課題の解決に向けて話し合いや意見交換などを行う学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	ごみの処理の現状とその課題、上下水道の整備と尿の処理について、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたら、整理するなどして、説明することができる。	ごみの処理の現状とその課題、上下水道の整備と尿の処理について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
	5	5/18~	食品衛生活動のしくみと働き	食品の安全性について理解し、行政、生産・製造者による衛生管理について説明することができる。	食品の安全性、行政、生産・製造者による衛生管理について、話し合いや意見交換などを行う学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	食品の安全性、行政、生産・製造者による衛生管理について、学習したことを社会生活事例などと比較、分類し、それらを説明することができる。	食品の安全性、食品の安全にかかわる行政の役割、製造・加工者によるHACCPなどの衛生管理について、基礎的な事項を理解している。
	6	5/25~	食品と環境の保健と私たち	食品表示、食品の安全性の情報、食中毒の防止対策、環境の保健について理解し、説明することができる。	食品表示、食品の安全性の情報、食中毒の防止対策、環境の保健について、課題の解決に向けて話し合いや意見交換などを行う学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	食品表示、食品の安全性の情報、食中毒の防止対策、環境の保健について、学習したことを、社会生活事例などと比較、分析し、それらを説明することができる。	食品の安全性、食品の安全にかかわる行政の役割、製造・加工者によるHACCPなどの衛生管理について、消費期限・賞味期限などの食品表示、食品の安全性の情報、食中毒の防止対策、環境の保健について、基礎的な事項を理解している。

三原 学さんの保健授業動画を見て教科書を進める。
 準備物：現代高等保健体育教科書 現代高等保健体育ノート
 YouTube が視聴できる機器

1. 教科書を熟読する。
2. 動画を見ながらポイントを理解する。
3. ホワイトボードの板書内容を、保健ノートの右側に書き写す。
(ただし、書き写すだけでなく自分なりに教科書をまとめる)
4. ノートの左側を解答する。

検索方法

YouTubeを開き、「保健体育 三原 高校」で検索する。

第二高等学校 2 学年「GR及びAS (情報分野)」シラバス (5 月分)

1. 単元 問題解決とコンピュータの活用

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りから具体的な問題を発見する。 ・問題解決のため情報収集や整理を行う。 <p>【思考力, 判断力, 表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を分析する。 ・表やグラフを活用し, 成果を表現する。 <p>【学びに向かう力, 人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決に向け計画を立て, 実施する。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決すべき問題を文章などの形で明確にできる。 ・問題解決のために必要な情報の収集・整理ができる <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ③収集した情報等をもとに問題を的確に分析できる ④問題解決の経過や成果を表やグラフで表現できる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑤問題解決に向け計画を立て実施することができる

4. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決のプロセス ・情報の分析 ・解決方法の考案 ・解決方法の選択 ・問題のモデル化 	1	◎教科書50～51ページの「問題解決のための4つのステップ」のうち「問題の発見～解決策の提案」に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・期限までに課題シートを作成し, Classi を活用し提出する。 ・問題提起や課題解決方法が明確に示されているか。 	① ② ③ ④ ⑤
第2回		1	◎Classi を通じて配信するシートをもとに課題を設定し, 解決に向けての取組を行う。		
第3回		1	◎毎時間の成果物は電子データ化し, Classi のポートフォリオやアンケート機能を活用し提出を行う。		

熊本県立第二高等学校 2 学年「GR・AS」シラバス (5 月分)

1. 単元 (1) テーマ研究オリエンテーション

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習設計マニュアル」と思考ツールを活用した探究活動のウォーミングアップを行う。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読み、文章の要旨を理解する。 ・自分の経験と結びつけ 200 字程度の文章を作成する <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りやこれまで学んだことから課題を発見する。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①キラーリーディング (速読法の一つ) の手法を身につけ、テキストを理解することができる。 ②パラグラフライティングの手法を身につけ、持論を文章に簡潔にまとめることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ③テキストの意図を読み取り、自分の経験と関連づけ発展した内容で表現できる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ④探究活動の趣旨を理解し、発見した課題を提案できる。

3 資料 「学習設計マニュアル」※1年次に使用

4. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	キラーリーディング① (文章を短時間で理解する) 第10章『失敗に強くなる』	1	キラーリーディング① (1)「学習設計マニュアル」104-111pを読み、重要と思うキーワードにアンダーラインを引く。 (2)特に重要と思うワード10個を書き出す (3)(2)から、さらに有用なワードを3個抜き出す。自分の言葉に言い換えてもよい (4)(3)を元にこの章の内容を要約する。	ワークシートに下書きし、Classiアンケートで投稿。	① ③
第2回	パラグラフライティング① 自分と体験と結びつける テーマ: 『失敗を成功に結びつけるには?』	1	(1)課題の理解 キラーリーディングで理解したことを元に、『失敗を成功に結びつけるには?』というテーマで、自分の体験を例に挙げ200字程度で表現する。 (2)パラグラフライティング (以下の通り) 四つの段落の短文を作成する。 ①一番言いたいこと ②その根拠(自己の体験) ③②を補う内容 ④全体のまとめ(①をより強く明瞭に)	ワークシートは各自GR, ASファイルに保管 (評価はClassiの投稿のみ。ただし、不具合で入力できなかった場合ワークシートの提出可)	② ③
第3回	キラーリーディング②+パラグラフライティング② 『自然科学と社会科学の違い』について考え、自分自身を見つめる	1	(1)「学習設計マニュアル」47-51pの自然科学と社会科学の特徴の違いを意識して、キーワードにアンダーラインを引く。 (2)自然科学と社会科学両方の重要なキーワードをそれぞれ3つあげる (3)自然科学と社会科学の違いを一文でまとめる。 (4)質問 『あなたはどちらの学びが自分の考えた、学び方に会うと思いますか?』段落で教えてください』	チェック:各クラスのGR, AS担当	① ② ③